

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第225号

ななえ古写真物語

VOL.225

地域の祭り

峠下稲荷神社の由緒

昭和31年

峠下地区



上の写真は、峠下小学校の旧校舎の前で、子どもたちが集まっている写真です。女の子はほとんどがおかっぱ頭に浴衣を纏っており、男の子は坊主頭にシャツという出で立ちです。右後方には、神輿がみられ、大人が担いでる様子が伺えます。現在でも七飯町の各地で子ども神輿を目にしますが、それに比べて、やや大きい気がします。この神輿を子どもたちが担ぐのは大変だったと想像します。

一体いつの時代の写真なのか、わからずにいたのですが、改めて見直してみたところ、手掛かりとなる文言が記されていることに気づきました。

それは、子どもたちの中央後ろにある扇形の表示板で、ルーペで見たところ、「神社新築落成 稲荷神社祭典 豊年 峠下小学校少年団」と記されていることがわかりました。峠下地区には稲荷神社があるので、それが新築された年代、もしくはその翌年になると考えられます。

ちなみに、文献で確認できる峠下稲荷神社の再建は2回、明治28年と昭和31年であるが、校舎に取り付けられたスピーカーの存在や、陶器製の碍子（がいし）がふんだんに使われている様子（日本製陶器碍子は、明治後半から大正にかけて普及したと考えられる）から、さすがに昭和31年時の新築だと考えられます。

ところで、峠下稲荷神社の由緒については、寛政12年（1800年）に再建されたという記録があるくらいなので、それよりも古いと推測できるのですが、創建は不明です。このことは、安政5年に成立したという市川十郎が記した『蝦夷実地検考録』の峠下村の項目に「稲荷社 祭神 倉稻魂命 草創詳ならず、寛政十式庚申年再建 例祭八月十日…」という記載が出典と考えられています。

また、当時の稲荷社は、現在地よりも山側にあったと考えられ、当館で所蔵している安政年間に描かれた「峠下村絵図」をみても、古道沿いの山側の位置に描かれており、現在地には、明治9年頃に移ったそうです。

そしてその後、大正4年に鳥居が建立。昭和3年に御手洗（手水舎のこと）が、昭和15年に灯籠が寄進された。上の写真の年代と推測した昭和31年に社殿を新築し、坂の下側となる国道5号沿いに社務所が建てられました。

現在、峠下稲荷神社の例祭は、市川十郎が記した8月10日（おそらく江戸当時は9月～10月だったと思われる）ではなく、8月21日となりましたが、その由緒は江戸時代にまでさかのぼることができます。地域で行われ続けた祭りには、その形が変わったとしても、継承された歴史がある。そんな一枚の紹介でした。

4日 草刈りな一日

日差しが降り注ぐ、夏は気持ちが良いものですが、当然草はよく伸びる。人間の事情を全く無視して。そろそろやりますか、の声で、史跡まわりの草刈りへと向かいます。この日は、仁山の庚申塚、西大沼の明治天皇じゅんさい沼小休所、峠下地区の古峠庚申塚、箱館戦争墓碑群。ぐんぐん延びた雑草だらけの場所が、見違えるほどにきれいになりました。これらの場所を興味をもって訪れた人が、また近隣に住む町民の方が、気持ち良く、そこで時間を過ごせること、そしてなにより計画的に管理をすることで、囲う木柵などの破損などにも気が付くことができるのです。



6日 夜の博物館第3夜

『縄文遺跡、保存と観光～「北海道・北東北の縄文遺跡群」から』と題し、市立函館博物館学芸員の福田裕二氏をお迎えしました。世界遺産登録までの流れでは、時間もお金も費やしたという推薦状の作成、コロナ禍においての先送り等々。また縄文遺跡群のイメージを示すイベントをやってもお金にはならず、自分たちのまちのアイデンティティへつなげることが大切で、市民や地元住民に親しまれ、主体的な活動の場となり得る必要があると締めくくりました。



19日ジュニア探検クラブ

この日のジュニア探検クラブは、少し遠出をして、八雲町郷土資料館と森町遺跡発掘調査事務所の見学をしました。道中の車内では、歌ったり、話で盛り上がりつつありますが、見学の時は、少し真面目に解説を聴きながら、七飯町にはない展示物や町独自の歴史を知る時間となりました。

特に八雲町では、木彫り熊の展示室で、いろいろな造形の熊彫りを見て、お気に入りの作品を探しました。解説くださった各町の学芸員の方々に、感謝いたします。



10月の予定

1	木	テーマ展開催中
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	休館日
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	スポーツの日
13	火	休館日
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	
18	日	ジュニア探検クラブ
19	月	休館日
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	町民文化祭
25	日	町民文化祭
26	月	休館日
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	

※休館日：5日、13日、19日、26日

いもすり器

小型。箱の中に目立てをした銅板を貼りつけた円柱形のローラーがあり、ハンドルをまわし、回転させることですりおろせる。



編集後記 ～tawagoto～

ある時代小説の短編を読み、江戸時代に損料屋という商売があると知った。現在というレンタル業だ。鍋、釜などの生活用品から旅用品、果てはふんどしなども貸したという。歴史を学ぶために、難しい本を読まなくても、時代小説から当時の職業や町民文化を知ることができる。ずっと昔の時代も暮らしを豊かにするために、そこで生きる人々が工夫と知恵を重ねてきた。時代小説を読む楽しみは、それを「知る」楽しさ。是非おすすめしたい。

Pichart ～ピチャリ～

第225号

令和8年（2026年）9月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp